

家庭科 学校設定科目「生活文化」 学習指導案

府立東住吉高等学校

1. 日 時 平成 30 年 11 月 7 日（水）第 3・4 時限 10 時 40 分～12 時 30 分

2. 場 所 南館 2 階 被服教室

3. 学年・組・教科（科目） 第 3 学年 2～8 組 学校設定科目「生活文化」選択者 36 名

4. 単元（題材）名 社会環境と住居

5. 単元（題材）の目標

○ライフステージの特徴や課題に着目して、立地・構造・間取り・環境など様々な観点から検討し、自分の住要求を明確にすることができる。

○住宅広告等の物件情報を読み取り、よりよい住宅を評価・選択をすることができる。

○自分たちの身近な家族や地域との関わりや課題について考え、家庭や地域の視点から異なる背景をもつ人々が共に支え合いながら安心して充実した生活を創造できる社会をつくることが重要であることを理解する。

（知識・理解・技能）

○ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居を選択するために、主体的に考え、工夫することができる。

○生涯を通して誰もが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会の構築のために、家庭や地域住民がどのようにつながり支え合ったらよいか、社会の一員としての自覚をもって安心・安全な住居やまちづくりの在り方について考察することができる。

（思考・判断・表現）

○共生社会における家庭や地域の一員として、地域福祉の充実に関心を持ち、住民相互の助け合いについて考え、主体的に行動しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

6. 教材観

この題材は、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「家庭基礎」の内容 A（5）共生社会と福祉のア・イと内容 B（3）住生活と住環境ア・イとの関連を図った発展的な題材である。安全で快適かつ健康な生活を営む場としての住居について、生涯を通して防災など安全や環境に配慮した住生活や住環境、まちづくりを工夫することができるようになること、そして家族・家庭や地域の生活課題について共に支え合う社会の一員として考察し、主体的に行動する意思決定能力を身に付けることをねらいとしている。

生徒は、1 年次の「家庭基礎」において、個人の住居に関する基礎的な学習を終えている。3 年次に選択受講者が履修する学校設定科目「生活文化」では、「一人暮らしの住まい選び」や『『住まい』と『まちづくり』（大阪市立住まい情報センターが制作・開発した住まい学習プログラム）など実践的・体験的に学ぶことのできる学習活動を通して、住生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して安全や環境に配慮した住生活を主体的に営むことができるようにする。

本時に至るまでに、生徒は大阪市平野区社会福祉協議会と協働して地域福祉や災害時の対応について

学び、地域社会全体を見通した安心・安全な住まい方や暮らし方を考えてきた。T V ドラマを視聴し、コミュニティ・ソーシャルワーカーの仕事や働きを学び、社会的に孤立し生活に困難を抱えている人と地域住民の考えを汲み取るワーク、避難所 H U G（平成 19 年に静岡県が開発した防災ゲーム）を用いて、災害時の対策を考えるワーク等である。

本時（5・6 時間目）では、大阪市立住まい情報センターが制作・開発した教材『『住まい』と『まちづくり』』を用いる。

上記教材は、『住まい』と『まちづくり』の 2 つの学習が体験できるようになっている。『住まい』では、ある町に土地を購入して家を建てる・引っ越しをするという場面から始まる。生徒は 1/100 縮尺住宅模型を制作し、購入した土地の区画番号に自由に家を配置する。複数の家が集まり、やがてまちが形成されていく。『まちづくり』では、まちに住まうことで起こりうる地域の問題である「空き家」や「ごみ屋敷」に焦点をあて、これら学びの仕掛けに沿ってグループでディスカッションできるようになっている。こうした一連のストーリー仕立ての実践的・体験的な学習活動を通して、住生活を個人の住居（計画・購入・管理、居住環境 等）とまちづくり(住環境)の両面から捉えさせる。

また、まちの住民が抱える生活課題を提議し、地域福祉と災害対策の観点からそれらの解決策についてもグループで協議させるものとした。

7. 生徒観 ※ 省略

8. 指導観

住宅模型を製作することにより、住居を立体的に捉え、住まいに対する関心と生徒の考えや個性を引き出せるよう指導し、自分の理想の住まいや暮らし方のイメージを持たせる。また、実物の模型を作ることで、より具体的に日照・通風、窓や扉の位置関係の重要性に気付かせる。書画カメラを用いて、模型製作の教示や出来上がったまち並みを住まう人の視点から確認し、視覚的にも理解を深めたい。

また、地域における身近で多様な生活課題として、まちの中に「空き家」や「ごみ屋敷」を存在させることで、地域住民としてこれらにどのように対処するか、これまでの学習のまとめとして地域福祉の在り方について生徒同士の考えを引き出していきたい。大阪府北部地震（平成 30 年 6 月）や台風 21 号（平成 30 年 9 月）の際の出来事も踏まえた上で、災害発生時時にまちがどのようなのかを想像させ、リスクとその対策についても考えさせる。

9. 単元（題材）の評価規準

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 技能	d 知識・理解
・家族の生活の場としての住居の条件、安全で快適な住まい方について関心を持ち、生涯を見通して住生活の工夫について考えようとしている。	・自らの住要求を明確にし、ライフステージと住環境に応じた住居の計画について、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から考え、工夫している。	・快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。	・ライフステージの特徴や課題に応じた住生活の特徴について科学的に理解している。
・まちが抱える問題や課題について、共生社会における地域の一員として主体的に考えようとしている。	・防災などの安全やまちづくりについて、地域・社会の一員として、協力・協働、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から考え、工夫している。		・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解している。(消防法、建築基準法、日照、通風・換気、温熱、耐震性 等)

10. 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	学習内容	評価の観点*				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
第1・2時	●住まいの選び方を知る 不動産情報の収集方法、賃貸物件の内見、間取り図の読みとり、維持管理 等				◎	・ライフステージの特徴や課題に応じた住生活の特徴について科学的に理解している。[知] (ワークシートの記述、定期考査) ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解している。[知] (ワークシートの記述、定期考査)
第3・4時	●住宅情報を収集してみよう 住宅広告を用色いた不動産情報の収集・整理 賃貸契約時にかかる費用、住居費 等		◎	○		・快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。[技] (ワークシートの記述) ・自らの住要求を明確にし、ライフステージと住環境に応じた住居の計画について、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から考え、工夫している。[思] (ワークシートの記述)
第5・6時 本時	●家づくり・まちづくりを考える 健康、安全、快適性に配慮した住宅計画 単独世帯、空き家の増加、防災について 地域全体を見通したまちづくり 等	○	◎			・家族の生活の場としての住居の条件、安全で快適な住まい方について関心を持ち、生涯を見通して住生活の工夫について考えようとしている。[関] (授業観察) ・自らの住要求を明確にし、ライフステージと住環境に応じた住居の計画について、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から考え、工夫している。[思] (ワークシートの記述) ・まちが抱える問題や課題について、共生社会における地域の一員として主体的に考えようとしている。[関] (授業観察) ・防災などの安全やまちづくりについて、地域・社会の一員として、協力・協働、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点からより良い住生活の創造に向けて、考え、工夫している。[思] (ワークシートの記述)

11. 本時の展開

- (1) 本時の目標
- ・健康・快適・安全な住まいやまちづくりについて関心を持ち、個々に工夫して家づくり・まちづくりに取り組む。[関]
 - ・まちの特徴やまちが抱える問題や課題について話し合い、解決策を考え、まとめ、発表できる。[思]

- (2) 本時の評価規準
- <第5時>
- ・家族の生活の場としての住居の条件(日照、通風等)、安全で快適な住まい方やまちづくりについて関心を持ち、生涯を見通して住生活の工夫について考えようとしている。
[関心・意欲・態度①]
 - ・既習事項を活用して、自らの住要求を明確にし、日照や通風の必要性、隣家や道路との位置関係やまち全体の特徴に応じて、個々の住居の建て方を工夫している。
[思考・判断・表現①]

- <第6時>
- ・まちが抱える問題や課題について、共生社会における地域の一員として主体的に考えようとしている。
[関心・意欲・態度②]
 - ・防災の視点や地域福祉の視点から個々の住居やまち全体の問題や課題を発見し、地域社会の一員その解決に向けて、解決の方策を考え、工夫している。
[思考・判断・表現②]

- (3) 本時の準備物
- ・住宅模型用展開図（ケント紙に印刷したもの）、プリント、カッター、カッティングボード、両面テープ、木工用ボンド
 - ・住まい学習プログラム『住まい』と『まちづくり』（パワーポイント）、住宅模型用展開図データ、住宅模型用屋根材、住宅模型用壁材、土地配置図（大阪市立住まい情報センターより提供）
 - ・プロジェクター、書画カメラ、パソコン

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 5分	・本時の学習内容を知る。 家づくりを学ぼう 自分の家を建てよう！* ・「あなたは引っ越しをして、新しいまちに移り住むことになりました。まずは、向こう三軒両隣に挨拶をしましょう」	・席次と土地配置図との関係性を理解させる。(座席番号が地番になっている) ・机上の準備物を確認させる。 (ケント紙、プリント、カッター、カッティングボード、等)	
展開① 20分	・ワークシートに自分の地番を確認して記入する。	・パソコンと書画カメラを用いて、まちの区画を視覚的に分かりやすく示す。	

	• どんな家に住みたいか、自分の希望を整理する。 • 住宅模型用展開図を切り取り、家を組み立てる。まずはケント紙で真っ白の家を仕上げる。	• どんな家に住みたいのか、自分の理想の家のイメージをもたせる。 • 道路や周辺環境を確認する。地域に、「空き家」と「ごみ屋敷」が存在していることを認識させる。 • カッターの刃の部分で切り取り、みねの部分で筋を付け、角の折り目をきれいに仕上げさせる。	
展開② 25 分	• 組み上がった住宅模型を自分の地番に配置する。 • 自分の土地の立地状況に応じて【窓】【扉】を家に付ける。(必須) • 早く仕上がった生徒は、屋根材の色を選び、貼り付ける。 • さらに時間に余裕のある者は、壁材についても色・デザインを工夫して住宅模型を仕上げる。 • 家の工夫やこだわりをワークシートに記入する。 -家づくりのコンセプト -作ってみて気付いたこと	• 家を自分の土地に置いて、玄関位置や窓の位置を考えさせる。敷地の条件（方角、道路や隣家との位置関係等の周辺環境）を意識させる。 • 片流れの屋根の傾きを考えさせる。敷地の条件（方角、道路や隣家との位置関係等の周辺環境）を意識させる。 • 時間内に工夫して仕上げるよう促す。 • 仕上がった家は、土地配置図の上に建てるよう促す。 • 次の点について自分の考えや工夫について、理由や根拠とともに記入させる。 -自分の住要求 -健康で快適かつ安全に暮らすために気を付けたこと	家族の生活の場としての住居の条件(日照、通風等)、安全で快適な住まい方やまちづくりについて関心を持ち、生涯を見通して住生活の工夫について考えようとしている。 [関心・意欲・態度①] (授業観察) 既習事項を活用して、自らの住要求を明確にし、日照や通風の必要性、隣家や道路との位置関係やまち全体の特徴に応じて、個々の住居の建て方を工夫している。 [思考・判断・表現①] (ワークシートの記述)

〔第6時〕

展開③ 20 分	• 本時の学習内容を知る。 まちづくりを学ぼう！ ～町会に参加する～＊ • 各グループで役割を決め	• 全ての家が完成して配置できたかを確認し、書画カメラでまちの全体像を映し出す。人の目線でまち並みを確認させる。	
-------------	---	--	--

	る。 「あなたは町会に参加することになりました。町会長と書記を決めましょう。」 • 各グループで出来上がったまち並みや景観等を確認し、地域の住環境について話し合う。 「自分たちのまちの良いところや改善が必要なところ（このまちで困ること）を考えましょう。」 (個人→グループ) • グループの考えを発表させる。	• まちの住民が抱える生活課題であった【空き家】【ごみ屋敷】への対策を確認する。 • 平成 30 年に起きた災害（大阪北部地震、台風 21 号での被害）を振り返り、グループ毎にこのまちで起こりうる危険性を考え、ワークシートに記入させる。 -地域の生活課題である【空き家】【ごみ屋敷】への対策 -「防災」の視点から見た際に懸念されること -その他、このまちで困ること（改善が必要なところ) • 出てきた意見を、まちの立地から起こる問題、住民の住まい方から起こる問題について分類しながら黒板にまとめていく。	地域社会の一員として、防災の視点や地域福祉の視点から個々の住居やまち全体の問題や課題を発見し、まとめている。 [思考・判断・表現②-1] (ワークシートの記述) まちが抱える問題や課題について、共生社会における地域の一員として主体的に考えようとしている。 [関心・意欲・態度②] (授業観察)
展開④ 20 分	• 各グループから出た「困ること」や「防災」「まちとしての防災対策」を考える。 (個人→グループ) • グループで話し合った意見を発表させる。	• 各グループで出た意見に対する対策を考えさせる。机間指導しながら、各々の視点が深まるよう促す。 -高層マンションでは災害時ライフラインはどうか、水辺や山手では何が心配か - ごみ屋敷、空き家はどうか • 水辺、山手、高層マンション、ごみ屋敷や空き家の劣化に対しての対策を考えさせ、意見を発表させる。	防災の視点や地域福祉の視点から個々の住居やまち全体の問題や課題の解決に向けて、地域社会の一員として、解決の方策を考え、工夫している。 [思考・判断・表現②-2] (ワークシートの記述)
まとめ 10 分	• 学習を振り返る。 • ワークシートを仕上げ提出する。 • 次時の活動を確認する。	• 住宅は建ててからも手入れが必要なこと、家の立地により災害時の対策が変わることに気付かせる。	

12 本時の判断基準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる		C 指導の手立て
思①	屋上緑化や太陽光パネル等、環境への工夫がされている。 まち全体のテーマを設定し、住民の生活の快適性を考え工夫している。	既習事項を活用して、自らの住要求を明確にし、日照や通風の必要性、隣家や道路との位置関係やまち全体の特徴に応じて、個々の住居の建て方を工夫している。	⇒	扉・窓の設定が困難な生徒には、実際にまちの中での生活を想像させる。 住民の動線を意識させ、玄関位置・窓の配置へと導く。
思②-1	個々の住宅やまち全体の問題に対して、個々の住民の視点からの考えと公的立場からの考えの2つの側面から課題を発見し、まとめている。	地域社会の一員として、防災の視点や地域福祉の視点から個々の住居やまち全体の問題や課題を発見し、まとめている。	⇒	問題発見が困難な生徒には、自分の家がある町内の問題から考えを巡らせ、住民の立場になって考えるよう導く。
思②-2	既存の制度の枠を超え、問題解決に向けた新たな制度の提案をしている。 様々な立場の人のことを視野に入れた解決策を提案している。	防災の視点や地域福祉の視点から個々の住居やまち全体の問題や課題の解決に向けて、地域社会の一員として、解決の方策を考え、工夫している。	⇒	課題解決が困難な生徒には、一つ一つの事柄を具体的な事象に置き換え、解決策が工夫できるよう導く。

【 参考：ワークシート2 【思考・判断・表現②-2】の記述例 】

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
災害に強いまちづくりについて	<まちの困ったこと・改善が必要なことへの対策> ◎空き家になったらすぐに売却する。損傷の激しい家（空き家）は早めに解体する。新しい家を建てる。 ◎空き家の損傷が激しいけれども(持ち主がわからず)触れないなら、法律を変えて対応できるようにする。 ◎1年以上住んでいなくて、調査したとき危険に繋がりがそうなら取り壊してもいいという法律を作る。 <まちとしての防災対策> ◎メンテナンス団体を設立する。	<まちの困ったこと・改善が必要なことへの対策> ・耐震工事をする。 ・空き家をつくらない。 ・堤防を作っておく。 ・家の外壁を耐熱にしておく。 ・余計な木はできるだけ切る。 ・懐中電灯など防災グッズを用意する。 <まちとしての防災対策> ・避難所をつくる。 ・日ごろの呼びかけ（地域で孤立しがちな住人への）。 ・対策の呼びかけ。 ・看板等をしっかり固定する。

13 その他（授業様子の写真）

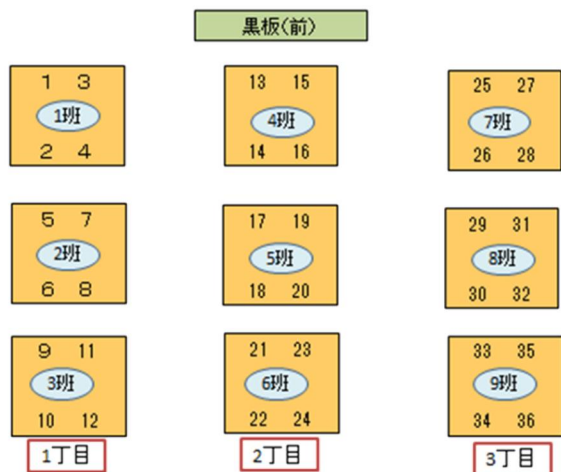
【 参考：ワークシート1 【思考・判断・表現①】の記述例 】

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
家づくりのコンセプト	◎太陽光パネルも置けるように屋根はほぼ南側に傾けた。 ◎マンションを緑色にしたかったのでドアと屋上を緑色にした。まちの中にあるテナントには緑カラーのカフェを入れて、住民の皆さんによく利用してもらう。屋上の緑は芝生で、住民の人たちに体を動かしてもらったり、ピクニックをして楽しんでもらう。	・窓が多めで、明るい家。 ・屋根と壁紙の配色にこだわった。 ・ごみ屋敷が近くにあるので、ごみ屋敷側の壁は窓を少なくした。 ・日が当たる側の壁は、窓の数を増やして、大きめの窓を付けた。 ・光を多く取り入れるために、屋根のところに窓をつけた。 ・隣の人が気にならないように、隣家の方にはあまり窓をつけないようにした。 ・隣家に面している側の1階の窓は防犯のために、道に近いところに設置した。
作ってみて気付いたこと	◎マンションのせいで日当たりが悪くなる所ができてしまうのが、あまり良くないと思った。まちの中に体を動かせる場所が少ない。	・窓や玄関の位置をどこにするかを決めるのが難しい。 ・日当たりや近所の家の状況を考えて、家の位置をどちらの側に寄せるか考えないといけないと思った。 ・太陽の光をより多く取り入れるために、どこに窓を付けるのか、屋根と壁の色の組み合わせを選ぶなど、考えることが多くて大変だった。 ・ごみ屋敷が近かったら、どこに窓を付けるかなど、とても大切になってくると思いました。 ・窓の位置まで考えて、家全体の設計をするのは難しいと思った。 ・立地条件によっても違うから、（建てる場所に）行ってみないと分からないと思った。



【引用教材】
＊住まい学習プログラム『住まい』と『まちづくり』 制作・開発：大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

【「住まい学習プログラム」教材についての問い合わせ先】
〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20 住まい情報センター4階住情報プラザ
大阪市立住まい情報センター 企画担当 電話：06-6242-1160、FAX：06-6354-8601
教材の紹介リンク：<http://www.osaka-angenet.jp/news/000574.html>

家づくり・まちづくり I

1 家づくりをしよう

- ・自分の土地番号 ()
- ・自分の所属 () 丁目 ・ () 班
- ・家づくりのコンセプト

- ・つくってみて気づいたこと

家づくり・まちづくりⅡ

まちづくりシート

1 防災について考えましょう

今年起きた大阪北部地震・台風 21 号での被害

このまちで困ることは何か？

2 災害に強いまちづくりについて考えよう

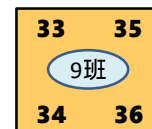
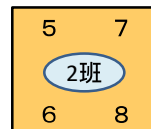
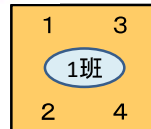
1で困ったことへの対策

まちとしての防災対策案



自分の土地番号を確認します

黒板（前）



1丁目

2丁目

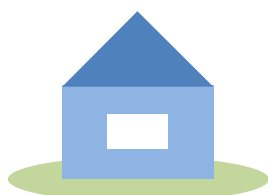
3丁目

家とまちについて考える

将来どんな家（街）
に住みたいです？

大阪市立住まい情報センター
住まい学習プログラム

「住まい」と「まちづくり」



＜前半＞

- 1) 住まいについて考える
- 2) **家づくりに取り組む**

＜後半＞

- 3) まちづくりに取り組む
- 4) **地域の住環境について考える**

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

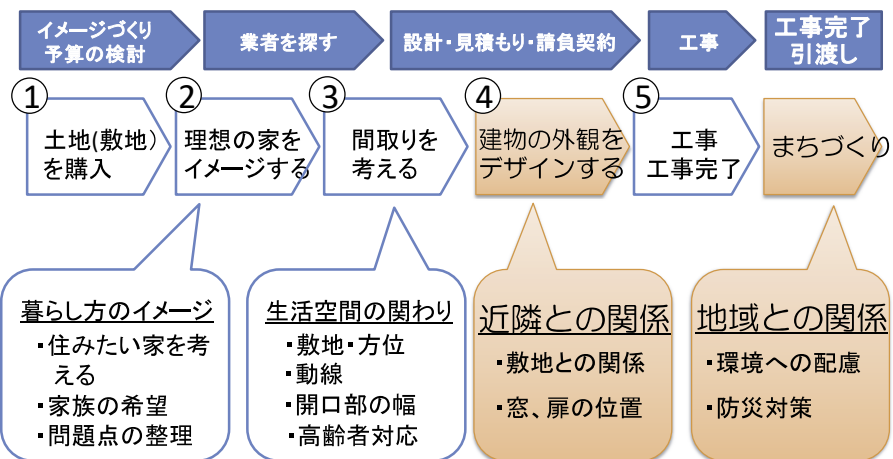
大阪市立 住まい情報センター



学びのポイント

<前半>1) 住まいについて考える

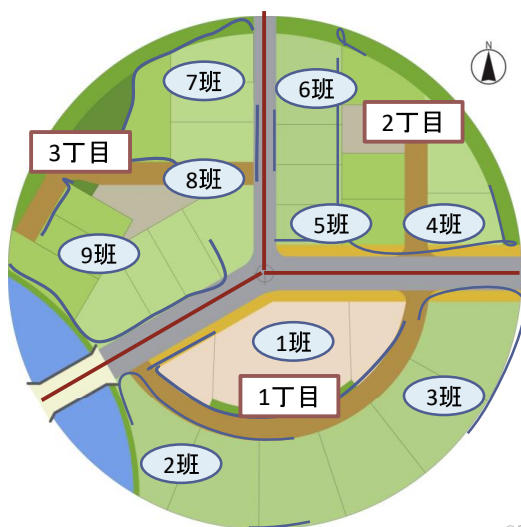
住まいづくりの流れ



©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

<前半>1) 住まいについて考える

土地を購入、新しいまちに引越しをします



1丁目～3丁目で9班に分かれて家づくりに取り組みます
1班は店舗づくりに取り組みます

土地の区画番号を確認してください



©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター



自分の土地番号を確認します

黒板（前）

1	3
1班	
2	4

13	15
4班	
14	16

25	27
7班	
26	28

5	7
2班	
6	8

17	19
5班	
18	20

29	31
8班	
30	32

9	11
3班	
10	12

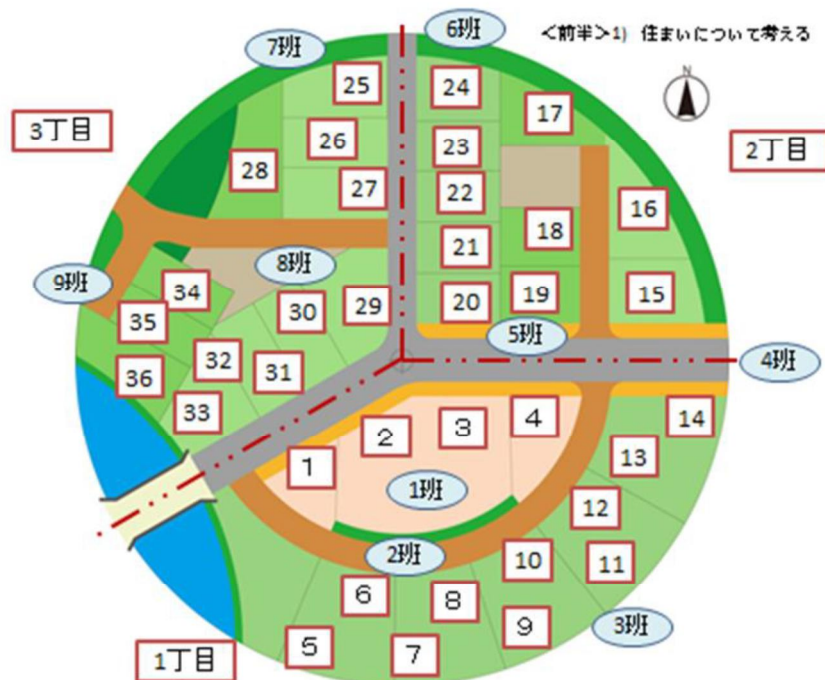
21	23
6班	
22	24

33	35
9班	
34	36

1丁目

2丁目

3丁目



道路や周辺的环境を確認しましょう

1丁目

- ☐ 单身マンション
1階に空き店舗
ごみ置き場の位置
- ☐ マンションと戸建て
住宅との共生

2丁目

- ☐ 空き家
(長屋の切離し)
小動物が住みついている
道路の幅員3m

3丁目

- ☐ ごみ屋敷
枯れ木が越境している
道路の幅員2m

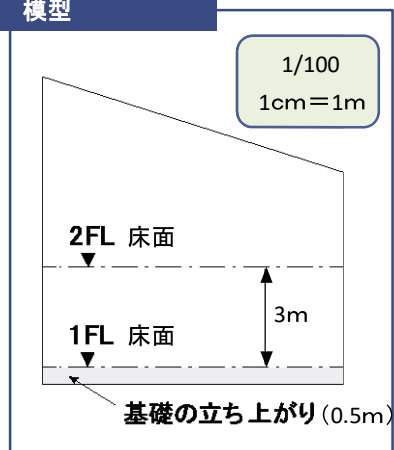
制作の手順

制作の手順

- ☐ 居間(メインルーム)の位置決める
- ☐ 窓の位置、玄関の位置を決める
- ☐ 屋根の色を決める(ボンド等で貼る)
- ☐ 壁の材料を決める(ボンド等で貼る)
- ☐ 窓を両面テープで取り付ける
- ☐ バルコニー、テラス、ポーチ、花台等を取り付ける
- ☐ 外構、屋上庭園などをつくる
- ☐ 家を敷地に両面テープで固定する

完成！！

模型



☆出来上がった作品の紹介をしましょう

次の授業が始まるまでに
家づくりを終えること

細かい作業は後回し！！
まずは家を建て、扉・窓を
付けるように！

まちづくりシート1

＜後半＞3) まちづくりに取り組む

防災について考えよう

大阪北部地震・台風21号での被害

このまちで防災上 困ること

大阪北部地震

2018年6月18日
7時58分ごろ
日本の大阪府北部を震
源として発生した地震。

地震の規模はM_j 6.1
震源の深さは13 km
最大震度6弱

大阪府大阪市北区・高
槻市・枚方市・茨木市・
箕面市の5市区で観測
した。

地震発生後のまちの写真を提示

地震発生時、屋外で注意しなければならない箇所をイラストで提示

- 液状化現象による電柱、信号の転倒
 - ビルの窓ガラス、外壁、看板、電光掲示板の落下
 - 住宅の瓦の落下
 - ブロック塀の倒壊
 - 車に乗っている場合、事故防止や緊急車両優先のため、左側に寄せて止める
 - 自動販売機の転倒
 - 水道管の損壊
- 等

路線名	運転を見合わせた区間	復旧状況 18日午後 10時45分 時点
〇〇〇...	〇〇〇...	〇〇〇...

地震直後に運転を見合わせ
関西の主な鉄道路線

鉄道路線図

台風21号についての情報を整理
平成30年9月14日18:00分現在
(参考:総務省消防庁による報道発表)

・台風21号衛星写真

・規模

・被害状況 等

台風21号でビルの壁面が剥落している写真を提示

台風21号による大木の倒壊の写真を提示

台風21号直後、屋根瓦が吹き飛び
ブルーシートに覆われた家屋の写真を提示

＜後半＞4) 地域の住環境について考える

暮らしやすい住環境とは（住環境の評価指標の例）

☐ 安全性	犯罪や事故につながる危険な場所がない 火災、風水害、地震などに備えている バリアフリー化されている
☐ 保健性	日照・通風・採光がよい
☐ 利便性	日常生活がしやすい
☐ 快適性	まち並みや景観が美しく統一感がある 空間にゆとりがある。自然が充実している プライバシーへの配慮とコミュニケーションの場がある 迷惑施設が近くにない
☐ 持続可能性	雰囲気やイメージが保たれ、まちに魅力がある

「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍 平成25年2月）P237「住環境の評価指標の例」を参考にして作成

まちづくりシート2

災害に強いまちづくりについて考えよう

1で困ったことへの対策

まちとしての防災対策案

「住まい学習プログラム」
についての問い合わせ

大阪市立住まい情報センター 企画担当

〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20

住まい情報センター4階住情報プラザ

電話:06-6242-1160、FAX:06-6354-8601

•教材の紹介:<http://www.osaka-angenet.jp/news/000574.html>

* 住まい学習プログラムの教材貸出のほか、学校への出前講座(講師派遣及び教職員を対象とした本教材の使い方講座など)もおこなっています。
まずはご相談ください。

